夕刊
磐城新聞
十二月十二日發行
定價　一部金五錢　一ケ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料金　普通欄金六拾錢　雜報欄金九拾錢（五號十二字詰一行）（場所指定一行拾錢増）
編輯印刷兼發行人　柏木哲　福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所　磐城新聞合資會社
登錄電信略（イワキ）　平局私書函第十二號　電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）
振替東京一〇八五六五番

古時計

山田勇太郎

僕のところに二十年來使ひ古した柱時計がある、八角型のよくありふれた極めて平凡な時計である、なんでも僕が始めて家をもつた時十八圓の俸給から割いて求めたものであるから値段は忘れたが上等の品物では勿論ない

それがこの頭人間なら寄る年波とでもいふか狂つて致方がない、指針だけはどうやら間に合ふが時報がまるで無茶苦茶だ、十五も二十も續けて打つたり一時のときに五時を打つたりする朝など四時を打つたからまだ早いと思つて寢てゐると八時だつたりする、小さい小供等はこれがために學校を遲刻したといつては叱言が出る、この古時計は家中のうらまれものになつて仕舞つた

時計屋に修理を賴んで見たが油をさゝずに長い間置いたために機械が減つて仕舞つたのだから何とも仕方がないといふ、それで代りの時計を求める事にした、時計屋の番頭が新らしい時計を届けて呉れた序でに古い時計をはづしてそこに新しい時計をかけて呉れた右時計がなんとかならんかと尋ねたら一圓位ならお引受け致しませうといふ、手許に置いても邪魔になるばかり、よからうと簡單に片づけようとしたら長男から異議が出た

この時計は自分の生れる前からあつたもので自分等は朝夕これを眺めて育つて來たので今この時計に別れるのは名殘惜しい氣がするといふのだ

成程尤もだと思つた

僕は何時も貧乏暮しで而かも轉々として居を變へてゐるので小供等には故山といふ感じや自分の家といふ觀念が薄いだらうと常に不憫に思つてゐる、幼時育まれた故山の思出は誰人共に同じ事であらう、自分は幸にして十七才まで育つた故山を持つてゐる『なつかしの山なつかしの川』と歌ひ『故さとの山見ねくれば襟を正すも』と歌つた石川啄木の心境に無限の共鳴を感じ得らるゝのもそのためである、然るに小供等にはこの感じが得らるゝだらうかせめても自分の家に生れぬ前からあつたこの古時計によつて幾分でもこういつた感じを滿たさうといふ心理が働いてゐるのではあるまいかと考へたときにこの古時計に愛着を感ずるといふ小供のいぢらしい心根に眼がしらの熱くなるを覺えたのであつた

『よろしいこれはお前にやる』と心よくその希望をいれてやつた、小供はいそ〳〵とこの古びた傷き果てた時計をいだいて自分の三疊の書齋に持ち去つた

それ以來この古時計は小供の部屋で相變らず十二時のときに五時を打つたり八時のときに一時を打つたり家族等をほゝえましてゐる

……………

しらうを句抄

柳原極堂選

庭に來てときをり鳴くや寒雀　瞬花
柚の木にかたまりなくや寒雀　森里
寒雀ふくれならびぬ鬼瓦　城山
笹の雪落して飛びぬ寒雀　一夢
夕さればいつも庭木の寒雀　翠雨
枝庭のポプラに幾羽寒雀　吉郎
寒雀降りゐる曉の舗道かな　藪子
藪近き崩れ土藏や寒雀　路風

新年短歌俳句募集

一、題　イ、新年雜詠　ロ、牛に因めるもの
　數隨意、但し俳歌を別紙に認むること
一、締切　十二月十五日

書を愛する心

下

庄司淺水

『朱に交はれば赤くなる』の古諺は、朋友を得るについての心掛けを敎へたものだが、書物を選ぶに際しても斯く云はれる。惡書より受くる惡影響は、生來の聾の人よりも遙かに多くの障碍をその人に與へる。同樣に良書より受くる良き影響は、良き友との交はりにも勝つて、我らの心によき影響を與へる

シセロは『若し己が所有のすべてに別れねば生きることが出來ぬと云ふのなら寧ろ、書物の堆積裡に死んだ方が倖せだ』と云ひ、フエヌロン師は『王になるため書物と別れろと云ふのなら、そんな王樣にはならぬでもよい』と云ひ、また歷史家ギボンは『余にとつて書物は印度の富にも勝る』と云ひ、マコーレーは『書物なき百萬長者たらんよりは、寧ろ書物と偕なる乞食の方が願はしい』と、述べてゐる

スコットは死に瀕して、アボットフオードの我が家に還つた時、己が身を書齋に運ばせ、書架にある長年の朋友たる書物に手をかけ、涙を流して別れを惜しみ、またサーゼーは知力が衰へ、最早、讀書する力が無くなつた時、書齋に足を運び、その友の背を撫でさすり、嘗ての幸福なる日を語り合つたと云ふことだ

書を愛しつゝ讀む、書を親しみつゝ讀む。其處に限りなき喜悅の泉がわき溢れ、我が心をうるほし、慰め、勵まして呉れるであらう

文明の籠兒

逢田　繁夫

見た事のない
眼の
聞いた事のない
聲の

高い踵の靴先に
島國に生れた
小人達は
踊つてる
氣取つてる

車中卽興

珠雲　小野務平

平乘十里走輕車
落木寒山眼界賒
嘉穀聞言賑倉廩
洋風和氣滿鄰家

今日の訓へ

哲名　山人

運命は世界と人生とに對して如何ともしがたい自然の勢と力が動きであるが、また厳として妥當する神の命令である、宇宙に內在する精神の宿緣で、どんなにやきもきしても。如何ともしがたい決定であつて、素より聽從する外はないのだ恰ゝ暴風一過、すんでしまへば大空の碧々として悠々なると異ならない。故に『神の求め給ふ祭物はくだけたる靈魂なり』と

12月13日　△江戸兩國橋竣成す（萬治三）△伶人に洋樂習得を課す（明治七）△三崎に帝大臨海實驗所建つ（同一九）△東京中央卸市場開場（昭和八）

12月14日　△赤穗の浪人四十七士主君の恨を報ず（元祿一五）△米第一代大統領ワシントン逝去（一七九七）

小說　高橋是清

(190)　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

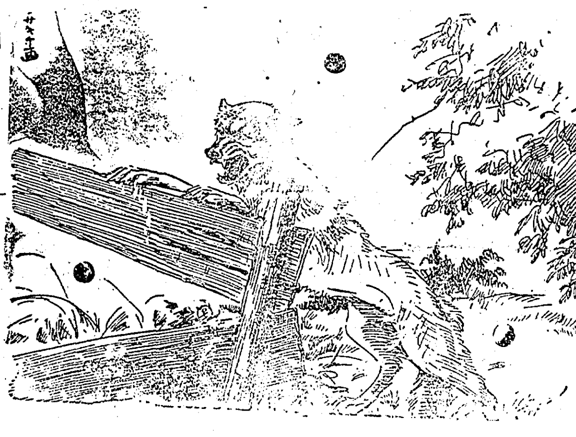
田中・濱口・犬養（二）

待望の第一次普選——その結果は全國民の注視を集めて公表された

政友會　二百十七名
民政黨　二百十六名
無產黨　八名
中立　十四名

かくて政友會は二十七名の議員を增し、民政黨は反對に三名を減じて三旬に亘る戰の幕を下したのであつた

續く第五十五臨時議會は四月二十日に召集された。これに先立ち政友會は十六日大會を開き『總選擧の結果我黨は多數の議席を獲得して議會の第一黨となりたり、この事實を前にして反對黨區々の云爲は毫も顧みるに足らず。現代政局を擔當して國政の衝に當り得るもの我黨を措いて他に之を求むべからず多少の荊棘何ぞ言ふに足らんや。內に結束を强うし進んで公黨の面目を發揮するに於ては最後の勝利必ず我に在り』と、宣言して氣勢を揚げ民政黨は又これに對し『第五十五議會は國民の總意を侮蔑し議會を無視する政府と議會政治に依りて時弊を匡効し、國運を進展せしめんとする一般民衆との衝突である。吾人は一致團結固き信念の下、現內閣の處決を促して宿昔の主張を遂行せんことを宣言する』と發表して議會に臨んだ



議會に於ける政民兩黨の差は僅に一名——キャスティング・ヴォートは小會派が握つてゐた。爲に幾波瀾を重ね停會數度、政府は辛うじてこれを切拔け得たが、間もなく政界の陣容に突然の變化が齎された。床次顧問一派の民政脫黨、そして新黨俱樂部の組織に依る變化であつた

そして續く第五十六議會議會は十二月二十六日に召集され、翌四年一月二十日田中首相は政友會大會に臨み

『多難の時局に際し立憲の大義を顯揚せよ！』と叫んで黨員を激勵し

『現內閣の引責處決を促し以て聖代の宏謨に賛襄せん事を期す』と、濱口ライオンは激昂した

然しこの議會は唯與黨の立場にあつた新黨俱樂部に依つて田中內閣は安定し政府の豫算並に重要法案は貴院で葬り去られた二三を除いて多くは無事通過し可決された

議會は無事通過したが、田中內閣の背後には更に後門の狼が待機してゐた。その第一は不戰條約に關し『人民の名に於て』（イン・ザネームス……）の字句は發した違憲問題でありその第二は『滿洲某重大事件』であつた

前者は幾波瀾の後六月二十日に至つて解決し田中首相はこれを機會に床次新黨俱樂部總裁の入閣を求めて內閣改造に着手せんとした『然し『滿洲某重大事件』は執拗に田中內閣の存在を拒み、遂に田中首相は進退に窮し七月一日總辭職の意を全閣僚に傳へ、その辭表を取り纏めて翌二日午前十時參內してこれを奉り、田中內閣はかくて死解したのである

存續期間二年二個月——後繼內閣の大命は同日濱口民政黨總裁に下つた

お召に應じて參內、大命を拜した濱口總裁は久世山の自邸に歸着すると共に閣員を決定し再び參內、閣員名簿を捧呈、御嘉納を賜はつた

四日親任式……

濱口民政黨內閣はかくて僅一日にして成つたのであつた

盛況御禮と（日延案內）
七五三と歲末福引大賣出し開催中の處日々大盛況御禮として
十二月二十日迄
福引大賣出し
全店商品豐富　新安値品續々入荷
◎御祝儀用格安品豐富……
御贈答には三井の商品券
三井吳服店
平町　電三八　二八四

眼鏡
豐富に取揃へて御座います
（亂視用眼鏡卽時調製）
根本時計店
平町二丁目　電話六〇七

大至急
會員募集
年齡、學歷を問はず堅實なる婦人を望む
平町紺屋町
上原家政婦會
電話二二番

毎度ありがたう御座います
バターの本場　北海道修道院
バターの王樣
トラピストのバター

謝恩デー
毎月一日、十五日
平町驛前通り
市川パン店

小料理開業御挨拶
永い間コンパルにて御ひいきにして頂きましたが、此度新田町にて『小料理翠月』を初める事になりました、何しろ初めてではありますしなれませんのでたゞ私共の心からなるサービスを御期待下さいませ。開店は來る十二月十七日で御ざいます。
平町中田町
翠月
ミサコ

優秀なる專門技術
完備せる試驗設備
モートル
變壓器
修理工場新設
平町月見町
合資會社　佐藤鐵工所
電話三六二番

內外建築材
建具材
阿部材木店
磐城國平町（公園下）
阿部好利（改メ）
電話四九四番

洋服普及六十年祭記念……景品付大特價提供
明治五年十一月十二日禮裝御制定の太政官御布告を仰いでから、ことしはまさに六十餘年となりました。これを記念する爲め大特賣提供致す次第であります。
◎新製秋冬紳士服御誂
御假縫付仕立入念奉仕!!
一、背廣三ッ揃　金三十圓より
一、オーバ各種　金二十五圓より
一、モーニング一着　金四十五圓より
一、立衿一着　金十二圓より
一、二重廻一着　金二十七圓より
一、東コート一着　金十六圓より
以上
商弊店では毎月上京致しまして、常に、型に、色合に、都會に遲れない樣に努力致して居ります。
◎目下特別景品附特賣中です
御注文一着毎ニ抽籤券進呈（但シ金參拾圓以上）
感謝の意を表して景品提供
一等　モーニング及、縞ズボン生地一着分　一本
二等　ラクダオーバ、コーチング生地一着分　一本
三等　合背廣服生地一着分　二本
四等　當店發行金拾圓券一枚　三本
五等　箱入カフスボタン一組宛
▽以上全部總當り
◎特賣期日　九月十五日より十二月三十日まで
◎抽籤發表　昭和十二年一月十五日嚴正に抽籤執行
高野洋服店
平町南町　電話（呼）四八五

食事、喫茶、酒場を兼ねた
冬のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平町公園下
電話六七四
神經痛
リウマチスニオレンヂパスタ

歲末年始の御贈答品には
滋養豐富な……
鰹魚節
宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番
（鮮魚部）四〇七番

好景氣來を暗示する 地方金融の二割增大

時節柄嬉しい悩みの補助貨拂底

師走の財界至極明朗

歳末の地方金融界は例年通り十日の聲を聞くと共に俄然平常とは廓然異つた活氣を呈して來た、而もこれから漸く各會社等の決濟期に入ると共に加速度的に金の動きが頻繁となり二十五日頃が最高潮に達し大晦日前後は主に商店關係に止まるが例である、而して今春來に於ける地方財界の推移を顧ると米、材木、薪炭其他の値上りなどが原因し前年に比べて出入とも約二割方の增加を示し、更に特異の一現象と見るべきは夥しい補助貨の拂底で近く拂ひ出すべきボーナスや各會社の利益配當等に直面し之が所要額の調達をさへ懸念さるる狀態とあり、右に對しては好景氣來の前提であるとの明朗な觀測が一部に行はれてゐる

酒屋は仕込濟み

先高見越しの金融活潑 薪炭にも顯著な實例

歳末金融匪盛の例を米穀に求める——各酒造家に於ける原料米は例年餘り早々に埒明かぬが常なるに反し今年は郡內の當業者が何れも仕込みを了した。之は先高を見越した結果でこの機敏な購入によつて千圓程の利得を見た向さへある、更に新炭などに就て觀るも生産地の品薄から之亦先高を豫想され以前には一車二十圓位の利益に過ぎなかつたのが當今では百圓宛も儲かると云つたわけで之等が綜合的に金融の活潑を誘致してゐるものと謂へる

素晴らしい鰯景氣

投資の反映を語る 小原七十七支店長

七十七銀行平支店長小原良武氏は這般の消息に就て語る

當店に於ける現前の事實として鰯漁業への投資關係を見ると、先月半ばから今日迄の間に、鰯漁業の加工製造及び魚油魚粕等の製品に對する荷爲替乃至倉庫等の擔保融通が茨城縣大津から小名濱、江名、豐間、四倉、久の濱邊を區域とし既に四十萬圓に達して年內には五十萬以上に上り、一、二三月を通すると昨年の合計八十萬より約二割增の百萬圓突破が豫想される斯くして附屬倉庫は米穀及び水産製造品等で充滿し、今後の收容力を危ぶまれて居る程である、云々

因に同行では來る二十六日より地方株主に對する磐炭の配當金を拂ひ出すので補助貨の拂底に備ふべく小原支店長が此程上京東京支店と夫々打合せを行つたと

年末と各行

支店長の活躍

叙上地方の歳末金融狀況は勿論各行共通の現象で地方に儼然たる地步を有し最大限の飛躍を辿りつつある常陽銀行平支店でも氣鋭の中山支店長が縦横の健腕を揮つて歳末の地方金融界に貢獻し、安齊福島貯蓄銀行支店長また然り、更に農工の菅支店長も特殊銀行として事情のゆるす限りに於て地方民の便宜を圖る等、彼此今年末の財界は近來稀な明朗一色を漂はすではないかと看取さる

紅唇非常時を叫ぶ

郡北女子青年團總會成績

石城郡北部女子青年團總會は九日午前九時より四倉町海盛座に於て開催したが來會者四百名、事務報告後左記各團代表の演說後平第一校長篠山廉氏の意義ある講演あり午後より餘興の活動寫眞を鑑賞三時盛會裡に閉會した

(農村非常時の女子の修養)草野村齊木玉子(一七)(村の更生は台所から)大野村和田サダ(一七)(私たちの行く道)四倉猪狩泰子(一九)

標語で

士氣を鼓舞

平局の年末準備

愈よ來る二十日から年賀郵便の取扱ひを開始する平局では昨十一日午後一時から局內業務改善調査委員會を開いて準備怠りなく更に十七日締切り下年末繁忙中從業員の士氣を鼓舞する標語を局內から懸賞募集し、優秀なものを局內數ヶ所に掲げると云ふ

修港と町長選擧で 多難な久の濱町

今後の曲折を豫想さる

雙葉郡久の濱町漁港第二期工事は此程愈よ認可の指令があつたので之れが請負ひに關し近く町會を開く事となつたが大体町營と決定するらしく、又難産の町長選擧は新たに助役昇級派が擡頭し益々複雜化を豫想されてゐる

。錦村農産品評會。。。。。 錦村農會主催農産物品評會は今十二日より開催中であるが十四日は恰も錦小學校新校舍の落成式當日なので同式場に於て入賞者の賞狀授與式を行ふ事となつた

。錦村の開眼檢診。。。。。 來る十八日と決定した

五十萬を超過するか 明年度大平町總豫算

平商第四建築費に十二萬圓?

輝かしい市制實現を豫想されてゐる平町明年度の豫算は青沼町長の冗費節約主義に基いて目下各部毎にそのお膳立をねつてゐるが、縣町稅關係の如き縣會終了後でなければその附加稅等の見通しがつかないもの等がある處から見てその全體が纏るのは大体明春になるだらう

今の處では先づ懸案の平商新築並にこれが土地買收費として約八萬圓、第四小學校建築費四萬圓等が新規ものとして計上されるではないかと云はれて居り

從つて其間の增減を見越しても今年度豫算四十九萬九千二百圓は超過を免れまいと觀測を下してゐる向きもある

各町村戸數割輕減?

郡下各町村でも弗々編成準備に着手したやうだが過般指定費途以外に充當せざる條件の下に交附された七萬六百七十九圓の臨時町村財政補給金がその大半町村稅に充當された處から見て特別稅戸數割は何れも減額され、それ丈け町村民の負擔が輕減される事になるだらうと早くも一般から喜ばれてゐる

特別補給金交付

前記臨時町村財政

二、元利償還金が豫算總額の三分の一以上のもの

三、不在地主の地租額から村民の地租を引いた總額が町村の地租額の五分の一を越えたもの

四、公用地が町村所有地の十分の一以上のもの

五、小學校國庫補助金を今年度より支給されぬもの

六、水利組合、耕地整理組合費の負擔過大なるもの

七、人口密度寡少なるもの

七、鑛區稅が町村國稅總額十分の一以上のもの

ことになつた

戸籍面に躍る 一人二役の悩み

入營兵が超珍訴訟

戸籍面に一人二役を演じて悩んでゐる入營兵がある——

江名町北町漁夫白土德雄(三)君は來る十七日出發朝鮮羅南步兵第七十六聯隊に入營するが、同人は別に『大谷德雄』として戸籍に登録されてあり、その始末方を平町大嶺辯護士に賴み込んで來た

德雄君は豐間村薄磯字中街大谷佐平の長女ハツヨさんの倅で子持たずの江名町居住叔母トメ(五二)夫婦に引取られ『白土德雄』で小學校靑年學校と優秀な成績で修了し、今夏の徵兵檢査に於て何うした誤りかトメの姉トラ(五八)その婿淸七(五九)の嫡子三男『白土德雄』となつてをり大谷方にも『大谷德雄』なるも一人の自分あるを知つた

已むなく江名、豐間の双方で受檢して何方も甲種に合格し聯隊區司令部から『白土德雄』は朝鮮羅南行き『大谷德雄』は現役補充兵とされた

大嶺辯護士も將來に同情し七夫婦の嫡子として入營を勸めたが、事の內容は當局始め周知の事實であり、皇軍の一員として須く公明であらねばならぬといふ德雄君の純情を酌んで淸七夫婦を原告として『白土德雄は我子でない』なる身分確認の訴訟を平支部に申立てる

歳末明暗二筋道

ボーナスに喜ぶ者、貧苦に喘ぐ者、明暗二筋のこの歳末色は愈よナス景氣の氾濫によつて皮肉にもクッキリと色分けされて——迫る師走は泣き笑ひの表情だ

おゝボーナスよ

平局はもう頂戴濟み 勤人バンザイ!

明るい『ナス景氣』は一昨十日早くも平局に舞ひ込んで二百餘の從業員は待つてました!とばかりにみんな嬉しい顔つきだ

この額ザット九千六百餘圓、判任官級が十五割、雇員が十割見當と云ふ處更に來る十五日は鐵道關係に——其他の官廳、會社にも追ひ〳〵この朗かな風が吹き込んで此處も彼處も笑顔の氾濫——この月ばかりは勤人バンザイである

歳末物騒 吳服屋に賊

反物五十反盜まる

年末の慌しさをねらつて各所に盜賊が出沒するので平署で嚴戒中十日深更平町目貫通りの三丁目佐川吳服店の店先に置いた反物五十反(價額五十餘圓)を竊取されてゐるのを發見、屆け出により平署で犯人嚴探中

謝恩に禮服贈呈

舊師弟間に咲いた美談 小澤村長後援會

去る九月改選の結果田人村小澤村長後援會を組織し各々醵金の上百餘圓を取り纒め禮服壹着を新調、明後十四日贈呈する事となつた

灰色の勞働者街

生まるゝ哀話の數々

師走の暗黑面——立町、鎌田の勞働者街はこの寒空に縮み上つて居る、小暗いうちから起き出して稼いだ賃銀六、七十錢はその夕刻直に親子何人かの尊い糧となるのだ

或ははや八十の坂を越えながら孤獨のさびしさを毎日小つぽけな古物車にまぎらしながらヤツトその日を送つてゐる氣の毒な老爺も居り、暮の迫るにつれて生み出される哀話の數々がある

然しこれらの極貧者も既報の如く助成會が差しのべる溫い救ひの手により幾分でも樂しい正月が迎へられるわけだ

喜多流の 謠初會

平喜多流稽古會、靑洋會、平鐵道喜多會合同謠初會は一月二日午後一時から平鐵道倶樂部で開く、尙鐵道倶樂部の納會を來二十五日開く、番組左の如し

竹の雪 舟辨慶 龍太皷

異郷の空に迷ふ 父戀しの少年

平署の溫情に甦る

十一日深更平驛待合室をうろつく少年を鈴木部長が調べると

栃木縣那須郡那須村津田安次二男勝一(一四)—假名—最近四日間東京市內某菓子屋に小僧に住み込んだが父親戀しさの餘り主家の金三圓四十錢を掻つ拂ひ故鄕近の驛迄切符を買つて乘り込んだ列車が常磐線——平驛迄來て引き下され思案に暮れてゐたもの、同夜平署で保護の上今十二日汽車賃を與へ旅立たせた

菜種搾油所竣功

縣經濟更生課副業主任小高蘭平氏は昨十一日來郡、今十二日植田、好間二ヶ所の菜種搾油所竣功檢查を行つた

新年祝賀と名刺交換會

平町では恒例元旦新年祝賀並に名刺交換會を聚樂館に開く、出席希望者は二十日迄、會費券五十錢

公會堂費寄附募集

來町會に附議

平町會を來る二十一日頃開き三井榮一氏が公會堂建設費として寄附した一萬圓の採納並にこれが寄附金募集について協議する

天氣豫報

(小名濱測候所觀測)

今晚は北西の風天氣次第によくなる

明日は北西の風晴一時曇

。。。。。エレベータ止る

昨十一日午前十時頃平驛で同十時四十分發上野行客車につみ込む荷物をエレベータで運搬中突然動力停止、途中にぶら下つてしまつた已むなく列車の屋根を越して荷物を運び一部分はこれがため一と列車遲延した

俵四十錢高

昨日の俵米共販値

石城販聯の俵米定期共販は昨十一日行つたが出荷八十八俵、相場左の如く前回に比し何と四十錢高

大野 一一圓〇三錢 渡邊 一〇圓八一錢

除隊兵

平町左記兩君は朝鮮部隊を除隊、晝日時に歸鄕する

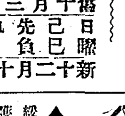
十二日午後二時五十分着朝鮮羅南山砲兵北目町柴野良夫、十四日午後三時十七分着朝鮮羅南步兵新川町佐々木粂吉

十三日 (小名濱測候所發表)

日出 六、三八 月出前 五、五〇
日沒 四、二五 月沒後 三、四三
滿潮前 四、三五 干潮前 九、二〇
滿潮後 二、一五 干潮後 九、五五

十四日

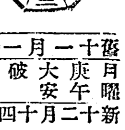
日出 六、三八 月出前 六、四二
日沒 四、二五 月沒後 四、三五
滿潮前 五、一五 干潮前 一〇、〇〇
滿潮後 二、四五 干潮後 一〇、三〇



新十二月十三日 日曜 己巳 先負 執 房宿 舊十月三十日

諸判定應需 東京市本鄉區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 けうしやの心を愼へて萬じの縮少を謀るに宜し▲二黑 十分と思ひしことも行難みなしやうす失物亦注意▲三碧 苦は樂の種と辛抱して本業に出精すれば吉▲四綠 識らず知らず深入して處罰に苦しむ事あり▲五黃 氣を締め油斷なく勵むときは大望も成べし▲六白 方針を換えず從前よりの進路をたどるが安全▲七赤 祭禮を擬ひ大に成す所あるべき盛運日なり▲八白 人のため氣の進まぬ事ありとも盡力すべし▲九紫 長上に從ひ部下にあはれみを懸けて職務に勵め



新十二月十四日 月曜 庚午 大安 破 心宿 舊十一月一日

▲一白 日頃の精力現れ來る日氣緩みを生ずる勿れ▲二黑 天の加護ありて立身出世する日萬事進で吉▲三碧 次から次と手に餘る事のわき出で來たる日▲四綠 寂に滿たずとも迷ふべからず飮食にも注意▲五黃 至誠を以て人に對するときは名利共に集る▲六白 和にして愛あれば求めずとも引立にあはん▲七赤 うらみ者を見れば人事と思はず己を省るべし▲八白 陰闇の城より陽明の地に出でし心地する▲九紫 自分勝手に走り易き日口舌爭論酬しよう亦注意

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋鋼物 金物問屋 (久) 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番

確實敏捷は(久)の生命なり
振替貯金口座 東京一〇九五六番

旅舍 大丰舘
東京上野驛前 下谷郵便局橫通角 電話下谷(83)六七七番
私は平町出身ですから特に鄕里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生 電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎